

## 二十間道路桜並木 (新ひだか町)



新ひだか町



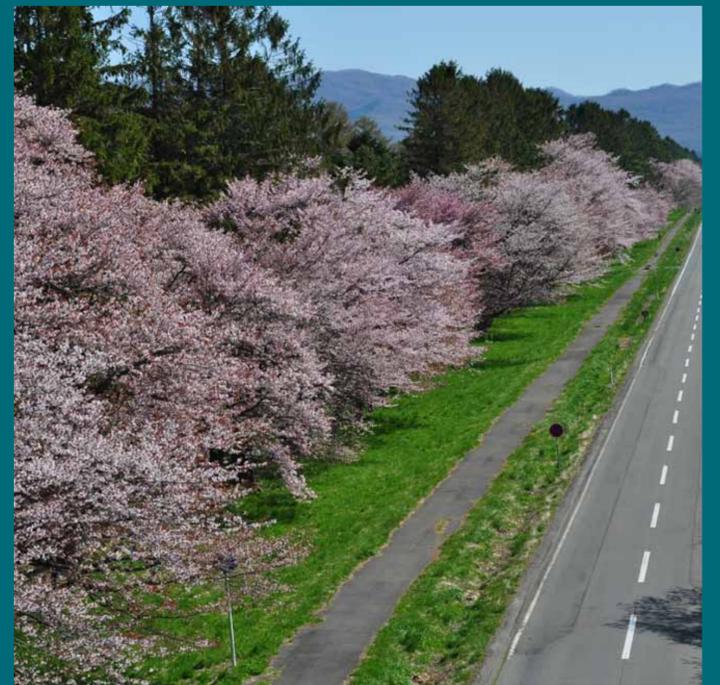
日本一の桜並木と言われる二十間道路桜並木

## 日本最大の桜並木

二十間道路は、1903(明治36)年に宮内庁所管であった新冠御料牧場を視察する皇族方の行啓道路として造成され、当時は中央道路といわれた。幅二十間(36m)、延長約8kmの広い道路が、いつから二十間道路と呼ばれるようになったかは定かでないが、道路両側に桜が植栽されたのは1916(大正5)年のことである。

当時の牧場職員が、近隣の山々からエゾヤマザクラなど約1万本を移植したという。現在は約3千本といわれ、エゾヤマザクラ7割、カスミザクラと少しのミヤマザクラ3割とが混植された日本最大の桜並木である。

道路突き当たりの新冠牧場(旧御料牧場)内に保存されている明治期の貴賓舎である木造2階建ての龍雲閣1909(明治42)年や木造平家の旧事務所1920(大正9)年などとともに、地域の歴史を伝える貴重な存在である。



エゾヤマザクラとカスミザクラが混じっている

## 概要

名称	二十間道路
所在地	新ひだか町
管理者	新ひだか町
規模	約8km
種別等	並木・街路樹
整備年	1916(大正5)年



紅葉時にも美しい

桜の名所として「日本の道百選」、「桜の名所百選」他多数認定されている